小學唱歌集

第二編

文部省音樂取調掛
編纂

唱歌集

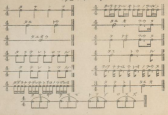
第二編

小學校師範學校中學校教科用書

唱歌集第二編

目次

拍名表

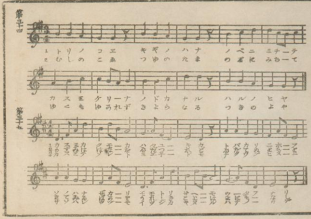

4/4 タ ナ ト ツ
4/4 タエ トウ
4/4 タエオウ
4/4 タ ラ テ レ ト ロ ツ ル
4/4 タ テ レ ト ツ ル
4/4 タダラナテデレ子トドロノツヅルヌ
4/4 ターラナテーレ子トーロノツールン
4/4 タエ オ ツーウ ヌ
4/4 タ テオ ツーウ ヌ
4/4 タエ トウ ル
4/4 ターア ナテーエ テトーオ ノツーウ ヌ
3/4 タ テ ト タエ オ
4/4 タ サ ザ テ セ ゼ ト ソ ゾ ツ ス ズ
3

第三十四 鳥の聲

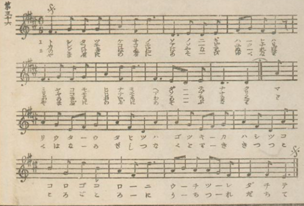
一 とりの聲。木々の花。野邊にみちて。
かすみけりな。のどかなる春の日や。
二 むしの聲。露のたま。野邊にみちて。
ゆくもゆかれずきよらなる月の夜や。

第三十五 霞か雲か

一 かすみか雲か はた雪か。
とばかりにほふ。その花ざかり。
もゝとりさへもうたふなり。
二 かすみは花を。へだつれど。
隔てぬ友と。きてみるばかり。
うれしきことハ。世にもなし。
三 かすみてそれと。みえねども。
なく鶯に。さそはれつゝも。
いつしか來ぬる。花のかげ。



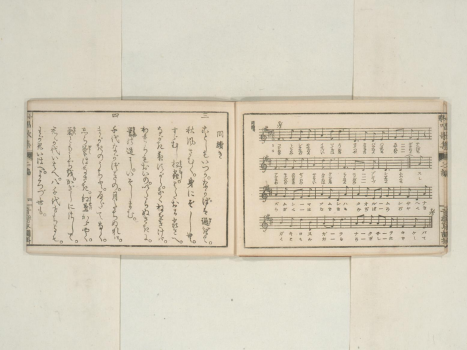
第三十六



第三十六　年たつけさ

一　としたつけさの。そのにぎはひは。
みやこもひなも。へだてなく。
毬歌うたひつ。羽子つきかはしつ。
こころごころ。うちつれだちて。
かしこもこゝも。あそびゆくなり。

二　のどけき春にし。はやちるとめでば。
都も鄙も。あそぶなり。
わかなをおいと。まつのちよつく。
さく花かざしつ。なくとりきゝつゝ。
こころごころ。うちつれだちて。
やまべに野邊にし。あそびゆくなり。
山邊に野邊にし。あそぶなり



同續き

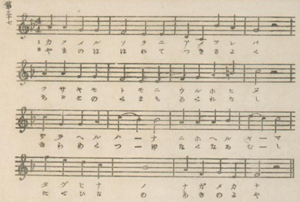
三

ことしもいつか。なつのはも過（す）ぎて。
秋風さむく。身にぞしむ。
すゞむし松蟲（まつむし）。はたおるむしさへ。
ながき夜すがら。なくねをきけば。
わすらるゝをおいの。ぱつらぬきたよ。
學（まなび）の道こそ。いそしまむ。

四

千代なくのばさその。月をながめれば。
まつがねのうちや。ふけてゆく。
むら菊（ぎく）はなさかれ。紅葉（もみぢば）かゞやく。
菊（きく）ともみぢを。かざしにさして。
きみの代いはへ。八千代までもと。
まづの君いはへ。よろづ世も。

第三十七



第三十七 かすめる空

一 かすめるそらに。雨（あめ）ふれば。
草木もともに。うるほひぬ。
わらへるはな。にほへるやま。
類（たぐひ）なの。ながめかな。

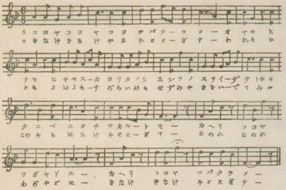
二 山の端（は）はれて。つき清（きよ）く。
ちさとのくまも。かくれなし。
きらめく露。なくなるむし。
たぐひなの。秋のよや。

第三十八 燕（つばくらめ）

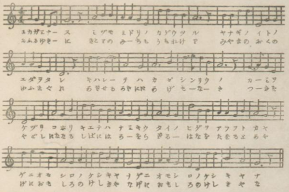
一
こよや〳〵。こよつばくらめ。
おやもひなも。ひねもすかたり。
たのしみし。その巣（す）をいでて。
とほき國邊（くにべ）に。たちわかるとも。
歸（かへ）り來（こ）よや。わがやどに。
かへりこよや。つばくらめ。

二
來（き）なけ〳〵。やまほとゝぎす。
われもひとも。よはよもすがら。
いねもせず。深山（みやま）をいでて。
都（みやこ）のそらに。かけほとゝぎす。
なのれ〳〵。わがやどに。
きなけ〳〵。ほとゝぎす。

第三十八



第三十九



第三十九　鏡なす

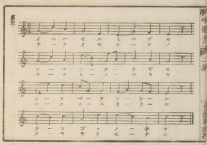
一

かゞみなす。水もこほりの。かげうつる。柳の絲の。枝をたれ。氣霽ては。風新柳の髮を梳り。氷消ては。浪舊苔の鬚を洗ふとや。げにおもしろの。景色やな。げにおもしろの。げしきやな。

二

降る雪に。樵夫のみちもうもれけり。みやまのおくの。夕まぐれ。あやせる笠まへ。新あきに。月をやどし。擬へる窓まへ。かざさざる。花をたをるとや。げにおもしろの。おもしろの。げにおもしろの景色やな。

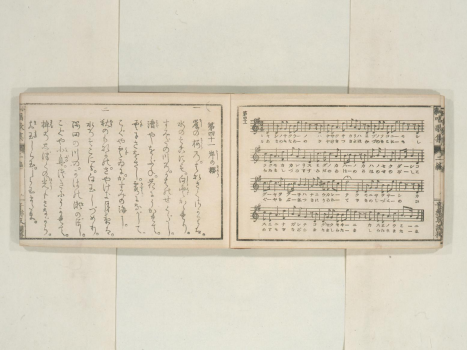
第四十



第四十 岩もる水

いはもる水も。松ふく風も。
調べをそふる。つま琴の音や。
あなおもしろの。今よひの月や。
こゝろにかゝる。雲霧もなし。

第四十一

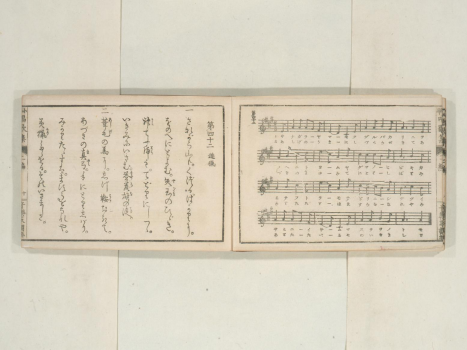


第四十一　岸(きし)の桜(さくら)

一
岸(きし)の桜(さくら)乃。はなさくさかりは。
水のそこにも。白雲(しらくも)かゝれり。
すみだの川乃。かはのせくだし。
漕(こぐ)やをぶね。花にうかれて。
雲(くも)にさをさし。霞(かすみ)になかして。
こぐや雲ゐに。かすみの海に。

二
秋(あき)のよの。さやけき月夜は。
水のそこにも。白玉しづめり。
隅田の川の。かはの瀬(せ)のぼし。
こぐや小舟(をぶね)。つきにうかれて。
棹(さを)のしづくの。光(ひかり)さながら。
真玉(またま)しら玉。しら玉またま。

第四十二

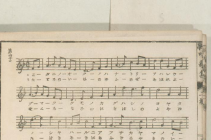


第四十二　遊獵

一　さながら山も。くづるばかり。
をのへにとよむ。矢（や）玉（だま）のひゞき。
神（かみ）てふ虎（とら）を。てどりにして。
いさみにいさむ。益荒（ますら）雄（を）の徒（とも）。

二　葦毛（あしげ）の馬に。しづ鞍（くら）おきて。
あづさの真弓（まゆみ）。手にとりしぼり。
みるまたゝする。まにとられしや。
英猟（かり）ゑかぎるぞ。それいさましさ。

第四十三



第四十三　みたにの奥

一 みたにのおくの花鳥あはれ。
うづまくくものかけはしのよや。
たのしき春にあふさか山の。
岩根（いはね）によせて。君が代うたへ。

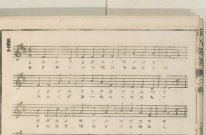
二 たまねの礒のゆふ風あはれ。
よせくる浪のにぎはしのよや。
ゆたけき秋にあふさか山の。
巌（いはほ）によせて。君が代いはへ。

第四十四 皇御國

一 すめらみくにのものゝふは。
いかなる事をかつとむべき。
たゞ身にもてるまごころを。
君と親とにつくすまで。

二 皇御國のをのこらは。
たわまずをれぬこゝろもて。
世のなりはひをつとめなし。
くにと民とをとますべし。

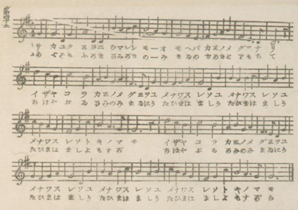
第四十四



第四十五　榮行く御代

一 さかゆく御代に。うまれしも。おもへば
神のめぐみなり。いざや兒等。神の恵を。
ゆめなわすれそ。ゆめなわすれそ。
ゆめなわすれそ。時の間も。いざやこら。
神の恵を。ゆめなわすれそ。ゆめなわすれそ。
ゆめなわすれそ。時の間も。

一 恵み深き。かみがきの。みまへの
さかきば。手にもちて。ちはやぶる。
神の御前に。うたひまはまし。うたひまはまし。
うたひまはまし。よもすがら。ちはやぶる。
神の御前に。うたひまはまし。うたひまはまし。
うたひまはまし。よもすがら。

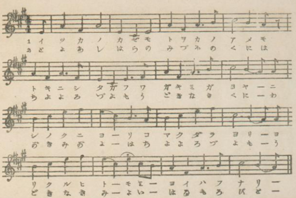


第四十六 五日の風

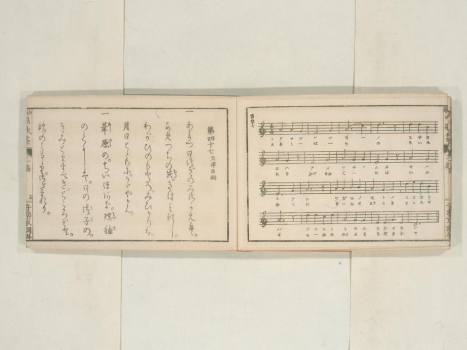
一
いつかの風も。とをかの雨も。
時にしたがふ。わがきみが世や。
にしの國より。高麗百濟より。
よりくる人も。御代いはふなり。

二
豐葦原の。みづ穂のくには。
ちよよろづ世も。うごきなき國。
わが君の代は。ちよよろづ代に。
動きなき御代。いはふもろ人。

第四十六



第四十七

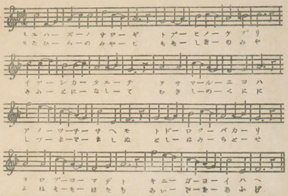


第四十七　天津日嗣

一　あまつひつぎのみさかえは。
あめつちの共（むた）。きはみなし。
わがひのもとの。みひかりは。
月日とともに。かがやかん。

一　葦（あし）原の。ちいほあき。瑞（みづ）穂（ほ）
のくには。日の御（み）子（こ）の。
きみとますべき。ところぞと。
神のみよゝり。さだまれり。

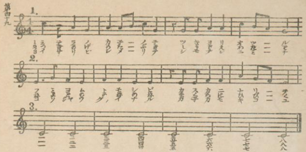
第四十八



第四十八　太平の曲

一　ゆみづのさわぎ。飛火（とぶひ）のけぶり。
いつしかたえて。をさまる御世ハ。
あめつちさへも。とゞろくばかり。
萬代（よろづよ）までと。君が代いはへ。

二　みひらのみやこ。百敷（もゝしき）の宮。
くわさふれて。むさしの國に。
しづまりましぬ。年ハ三千（みち）とせ。
代ハ百二十（もゝはたち）。御功績（いさを）あふげ。



第四十九 そでふれ梅の香

一 そでふれ梅のね。月よりおつる。
ふくとも嵐ぞ。かすかになりて。
一二三四五六七八。

二 月影うつる。霜はえこほり。
わらやの梅のか。枕ふひゞく。
一二三四五六七八。

三 漁火出ありて。霜もふるち。
姑蘇城外ちかる。鐘りをきこゆ。
一二三四五六七八。

明治十六年三月廿八日印刷發行
同　十八年五月再版

東京音樂學校藏版

（定價金拾錢）

[illegible]十年度定價金貳拾貳錢

[illegible]定價金拾九錢

版權所有

編纂者　文部省

發行者　高等師範學校附屬音樂學校

印刷兼發賣者　東京市京橋區銀座二丁目廿三番地　大日本圖書株式會社

發賣元　東京市京橋區銀座二丁目廿二番地　大日本圖書株式會社
大阪市東區博勞町四丁目七番屋敷　仝文社

販賣所　東京市京橋區竹川町　音樂々器專賣所　共益商社
大坂市心齋橋通北久寶寺町角　仝　三木佐助
